

## 小林明日香「待機児童問題と待機児童解消に向けた取り組み」

待機児童問題は昨今のニュースでもよく耳にする、主要な政策課題の一つになっています。横浜市は一時期、待機児童ゼロを達成し、全国から注目を集めました。待機児童ゼロの切り札となった政策が「横浜保育室」と呼ばれる認可外保育施設の制度でした。

筆者はこの横浜保育室の取り組みを事例として取り上げ、運営のしくみと、その意義や課題をまとめました。

待機児童という言葉はよく耳にしますが、待機児童について議論するには、その前提として待機児童の意味と、保育を巡る複雑な法制度や政策、その問題点も含めて正確に理解する必要があります。そうしないと誤解の恐れがあるからです。「待機児童ゼロ」が政策目標に掲げられるとき、待機児童はあってはならないものだという価値判断が前提にあり、待機児童が減れば単純に「ああ良かった」と思いがちですが、ほんとうにそうなのか。待機児童の数はいったいどうなっているのか。量の問題だけを取り上げて、質の問題を等閑視してよいのか。待機児童対策にどれだけ予算をかけることが是認されるのか。成功事例と言われているが、反面どのような課題を抱えているのだろうか。A という自治体で機能した待機児童対策は、別の自治体でも機能するのか。論文を書く際には、単に「こういう事例がありますよ」と紹介するにとどまらずに、絶えず“疑いの眼”をもって物事をとらえ、検証する姿勢が求められます。